

お前に逢ふてだては

お前に逢ふてだてはないものか  
階段の数は数かぎりなく  
ガラス窓の数は数かぎりなく  
行き交ふ人の数は数かぎりない

やさしいお前をえらび出して  
肩に手をかけて 向ふを向いて  
足早にいつしよに歩くことは  
いまは望みもないことだらうか

日射しを顔にいつばい受けて  
私とお前はほほゑみを交した  
あの時靴音がひびきを失つたやうだ

かすかな埃に目を細めて  
雲の上を歩いて行くやうであつた  
やはらかいお前の指をにぎりしめながら